



29 総審第3号
平成29年11月16日

福島県知事 内堀雅雄 様

福島県総合計画審議会
会長 塩谷弘康

福島県総合計画「ふくしま新生プラン」に係る
平成29年度施策取組状況評価に関する意見書

当審議会において、平成29年度施策取組状況について審議を行った結果、下記のとおり意見をとりまとめましたので提言します。

なお、県におかれましては、当審議会の意見を尊重した対応方針を決定されるとともに、今後の施策の推進に生かされることを要望します。

記

〔提言〕

東日本大震災から7年目を迎え、復興・再生への歩みを進める中で、避難者の生活再建や風評被害の払拭など、いまだ多くの課題が残されている。

総合計画に掲げる「夢・希望・笑顔に満ちた“新生ふくしま”」を実現するためには、復興への取組を着実に進めるとともに、今後の人口減少・少子高齢化の進展も見据えながら、持続可能な地域社会をつくるため、以下のような取組を進めていく必要がある。

1 人と地域が輝く「ふくしま」

○ 安心して子どもを産み育てられる環境の整備

- ・ 子育てに対する不安や負担感を軽減するため、包括的な子育て支援策の構築と、受け手に対する効果的な情報の発信
- ・ 育児の孤立化を防ぎ、地域住民とのつながりと安心感を感じられるような地域全体で子育てを支え合う気運の醸成

○ 子どもたちが心豊かにたくましく育つ社会の実現

- ・ 子どもたちが心豊かにたくましく育つよう、学力に加え、想像力や思考力、構築力などを高めるための教育の充実
- ・ 子どもの健やかな成長を支えるため、妊娠・出産・子育てと教育、社会経験までの切れ目ない支援の充実
- ・ 放射線に関する正確な知識を身につけ、いじめや風評に負けないための教育の充実
- ・ 地域（郷土）を知り、地域に誇りを持つことが地域社会の一員として活動する根幹となることから、子どもの頃から地域の魅力に多く触れる機会の確保と充実

○ 地域資源を生かした地域活性化の推進

- ・ 多様な地域資源への気づきと、地域の魅力の効果的な発信
- ・ 地域社会の新たな担い手である「地域おこし協力隊」への任期終了後をも見据えた支援の充実
- ・ 山林の適切な管理と木質バイオマスの利活用による経済の地域内循環の促進及び地域の雇用を支える仕組みの構築

○ 避難者の生活再建支援

- ・ 避難生活を続けている県民への生活再建に向けた多様な支援策の提示

2 いきいきとして活力に満ちた「ふくしま」

○ 風評払拭とブランド力向上に向けた取組の推進

- ・ 食の安全や産地ブランド力強化につなげるためのGAP（農業生産工程管理）の認知度向上とGAP取得に向けた支援の充実
- ・ 風評払拭のための県民自らによる積極的な地産地消の推進

○ 観光・交流の拡大に向けた取組の推進

- ・ 教育旅行の回復に向けた取組の充実と、復興事業により整備された高速道路も活用した観光施策の更なる展開

○ 再生可能エネルギーの導入促進

- ・ 既に導入が進んでいる太陽光発電に加え、多様な再生可能エネルギーの利活用の拡大と、設備の安全性確保・景観保持のための取組の強化

○ 若者の県内還流に向けた取組の推進

- ・ 若い世代が本県に戻りやすい環境をつくるため、首都圏に進学・就職する若者たちに向けた効果的な情報の発信

3 安全と安心に支えられた「ふくしま」

○ 健康づくり・健康管理の取組の推進

- ・ 避難者が県内どの市町村でも検診を受けられる体制の構築
- ・ 浜通り地方における医療提供体制を維持するための広域的な支援体制の構築と、人材や設備等の支援の充実
- ・ 医療人材の不足の実態をしっかりと把握した上で、偏在対策と人材確保に向けた取組の一層の推進

4 人にも自然にも思いやりにあふれた「ふくしま」

○ 思いやりと誇りあふれる地域づくりの推進

- ・ 地域での多様な年代との関わりや自然との触れ合いが、相互理解や地域への愛着や誇りへとつながることから、地域における世代間の交流の促進と、子どもたちが自然と触れ合う機会の確保と充実